

大阪分会執行委員会ニュース

京阪金合同で遅くから地協関連施設にて執行委員会を開催。

5月23日 議題として、今この5月を超えて私たちの闘いと、状況情勢をどうみるのか。そして、支部報告を受け、職場状況の報告をしながら遅くまで熱心に論議しました。

(^^ 5・24争議支援総行動^^)

24日は盛大に争議支援総行動として、朝から(東京海上日動のビル)淀屋橋でビラをくばり、班ごとに別れ各企業争議の応援をしました。15時からは280名以上の働く仲間がOBPビル前にて大合唱と、演奏の中、要請行動となりました。大阪労連久保田さんを先頭に宣伝と、シュプレヒコールの中、8名の要請団はみんなに送られ要請文を渡しに行きました。前回は中に入れる入れないで外でもめました。今回は会社も学習したのか「前回と同じ場所で」と、すぐにエントランスに入れました。しかし、「要請に来ているのにちゃんと対応しろ。」という声のもと、「いや、皆様に見えるようここ(ガラス張り)の方がいいかと」...「なにを言ってるんだ。ちゃんと対応しろ、座らせろ。」と言え、中へ...ようやく顧客対応スペースまで入り、全員が座る形となりました。(また、誠実な対応がなければ280名を呼んで全員でつめよる予定だったのですが...)、会社は2名が対応(何人かの社員が遠巻きに見ていた)して、要請文を読み上げ大阪の声として、争議の早期解決を図るよう本社に伝えるよう言いました。会社は肅々と受け取り、「本店の方へ渡します。」ということで柔軟な対応をされました。そして、私たちは、早くこの争議を解決し、雇用の不安をなくし、清々と、仕事に邁進できるよう訴えました。会社はかさねて、「必ず本店に伝える」と言うことを約束しました。

感想として、280名を超える迫力はすごかったですし、私たちの闘いが間違っていない、働く者みんなが共感できるものであると確信しました。最後に大阪労連服部さんの言葉から、「最近金融問題が多い、CSRが大事であるトップ企業として、きちりしなければいけない。争議のいち早く解決することが、企業として大事であり、存続すら危ぶまれる。大阪労連として、この会社に張りついて争議をしていく、本当にこ

れでいいのか、現場は消費者と密接している、本社はわかっていない。独自の意見を大阪から本社に対して申し入れるよう付言しておく。」なにわともあれ、私たちの闘いが共感を得てきているのは確かです。損保ジャパンの社長も「もっと社員の声を聴き、現場を把握すべきだった。」と悔やんで答えています。現場の状況を知ってもらうためにも本当に本社に伝えてほしい。そして、私たちRAの制度廃止を即刻にも取り消すよう心から願う。

そして、この日勉強できたことは、各争議のピラを読みながら行動して、どんな争議であれ、最高裁判決が出て守らない企業が多々ありますし、都労委の命令でも無視しつづけているのが現状であります。大企業がこの国の法、秩序を乱しているということがわかりました。

制度廃止は社員で無くなる事であるから私たちは闘いをしていますが、他の争議はパートや派遣で雇って正社員として認めないという偽装請負雇用をしている裁判などがあります。旧国鉄関係の争議は、1047名がバラバラの状態では解決を望めず労働者がひとつになって闘うことが課題であった。この1047名が想いをひとつとし団結した結果、統一した要求を突きつけると言う状況を作り出しています。私たちも、どの柱の要求も大事です。しかし、闘う構えを作らなければ相手はだらだらしてくるでしょう。5月を過ぎたら、大きく何かを変えていかねばなりません、一人ひとりが、この闘いの状況情勢の認識を高めなければ、勝てるものも勝てません。臨時大会でもあったように、一定程度の期間で転進金を取る方はそれなりに、考えたことですし、これからは中間答申も見据えてしっかりと、雇用を守って行く闘いを唱えて行きます。継続雇用先はパートナーズへの出向が想定されており、本体勤務の社員であり転進金は貰えませんが、色々と転勤をさせたり、処遇を冷遇したり、などの新たな問題が考えられます。会社はそこに押し込んでしまうように中間答申からも読み取れます。

これからも、いっそう団結し、より強固な布陣で私たちの将来展望を図って行きます。

ひとりはおみんなのために みんなはひとりのために
全損保日勤外勤支部大阪分会